

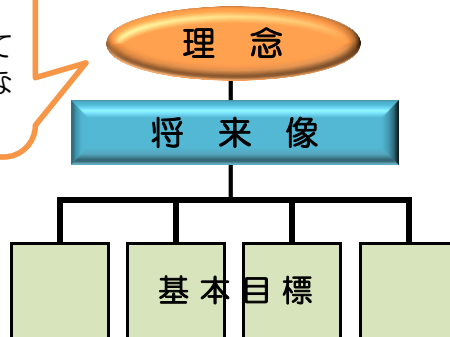
基本構想体系の種類について

基本構想の体系については、大別して下記の3種類がある。

理念 — 将来像型

まちづくりの理念を掲げ、理念に基づき、将来像・基本目標を設定

ここでの理念とは…
まちづくりを進めていく上での、基本的な考え方



メリット	理念と将来像は直接的には関係ないため、理念については、まちづくりに対する考え方を自由に設定できる。もっともポピュラーな体系。 現行計画の体系。
デメリット	理念と 将来像 との線引きが曖昧になりがちで、混同されやすい。

将来像単独型

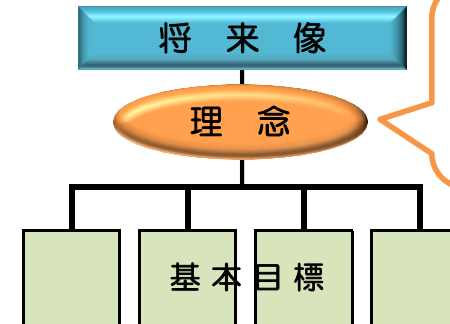
わかりやすさを重視し、将来像と基本目標のみを設定



メリット	体系がシンプルでわかりやすい。基本目標など、より具体的な内容の検討に時間をかけることができる。
デメリット	市の全体的な方向性について、説明不足になりやすい。

将来像 — 理念型

将来像を設定し、それを実現させるための理念と、理念を踏まえた基本目標を設定



ここでの理念とは…
定めた将来像を実現するためにとるべき方法の考え方

メリット	将来像と基本目標のつながりが説明しやすい。
デメリット	理念と 基本目標 との線引きがあいまいになりがち。

まちづくりの基本的な考えとしての「理念」は必要不可欠ですが、「理念」と「将来像」の2つをスローガンのように作成してしまうと、両者の違いがはっきりせず、わかりづらくなります。

そのため、市では、『市民が共有できる計画づくり』という観点から、シンプルでわかりやすい「将来像単独型」を採用し、理念については、将来像の説明部分に盛り込むことで、説明不足となりがちな点についても解消できるものと考えます。